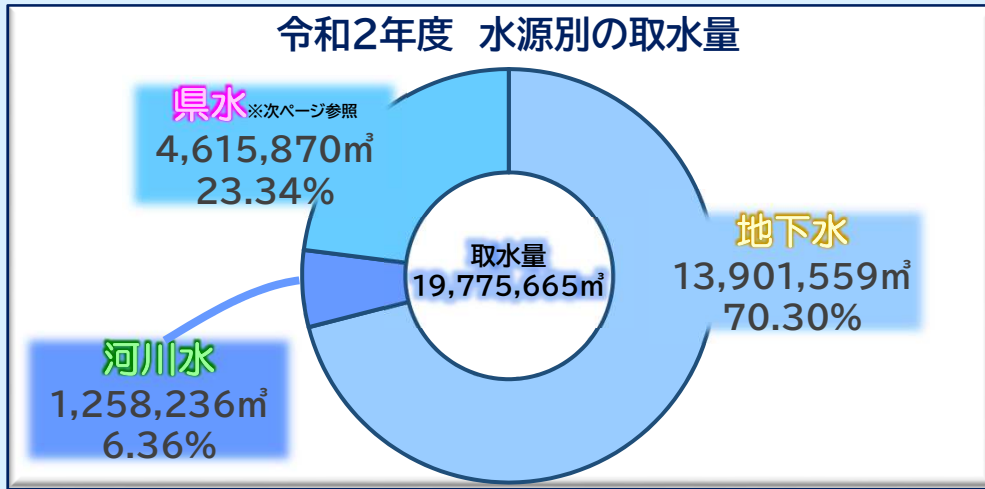


地下水

令和4年3月
Vol. 12

秦野市の水道事業の最大の特徴は、秦野盆地の地下に蓄えられた、豊富な地下水を水源として利用していることです



令和2年度の実績では、年間の取水量のうち、約70%が地下水で賄われています。

水道マスコットキャラクター
Dr.おいどー

ハダノ
上下水道物語



地下水利用

メリット

季節による温度変化が少ないことから、夏は冷たく、冬は暖かい水道水を供給することができる。

自然に濾過されたきれいな水なので、浄水に係る費用を抑えることができる。

デメリット

大地震時における濁りの発生や汚染物質の影響を受けやすいため、こまめな水質管理が必要になる。

地下水の利用は、数ある取水施設の維持管理や水質管理に伴う負担が大きいという側面はありますが、浄水費用を抑えることができ、なにより、「安くておいしい」といわれる水道水を皆さんにお届けできるため、**メリットの方が遥かに大きい**のです。



「安全」・「安い」・「おいしい」水道を受け継いでいくために

水源の統廃合や井戸の改良工事(浅井戸等から水質が安定している深井戸への切り替え)を実施しています。

浅井戸 深さ10～30mの地下水を取水する井戸
深井戸 深さ30m以上の地下水を取水する井戸
→地表からの影響を受けにくい、水量・水質ともに安定した地下水を得ることが可能

柳川取水場の改良



改良前(湧水)
取水量 200m³/日



改良後(深井戸)
井戸深 80.5m
取水量 740m³/日

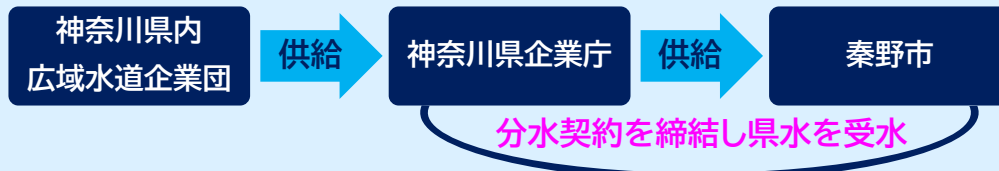
県 水

秦野市では、地下水を水源の中心としながらも、「県水」と呼ばれる水道水を神奈川県企業庁より受水し、不足する水源を補っています。

この県水と呼ばれる水道水は、神奈川県内広域水道企業団が三保ダムや宮ヶ瀬ダムなどを活用して、酒匂川と相模川から取水しているもので、秦野市では、地下水の水源が少ない区域に地下水とブレンドしてお届けしています。



ニタ子送水ポンプ場
(県水受水施設)



秦野市では、昭和40年代から人口が右肩上がりに増加したため、将来的な水道の安定給水を見据えて、昭和51年度より県水を受水しています。近年では、人口減少に伴い給水量は減少傾向にあります。今後も県水を受水し続ける理由があります。

県 水 受 水 の 理 由



- ① 地下水の水源が少ない区域(大根・鶴巻地区)があり、水道の安定給水のためには県水に頼る必要があるため。
- ② 県水を配水しているルートでは、12万人以上の給水人口を賄っており、朝夕の水道使用量が多い時間帯においては、地下水などの水源だけでは給水が不足するため。
- ③ 災害などの非常時において、地下水を取水できなくなった場合に、給水をバックアップする重要な水源となるため。

「安全」・「安い」・「おいしい」水道を受け継いでいくために



秦野市では、水道水を作るための費用のうち、約2割を県水の受水に係る費用が占めています。県水の受水は必要不可欠ではあるものの、小規模事業者である秦野市の経営にとっては大きな負担となっています。

県水の受水に係る費用全体の約8割を占めているのは、基本料金です。基本料金は、県水を確保するためのダムの建設に要した経費の回収に係るもので、ダムの容量は、県水を利用する各事業者により、当時の人口予測に基づいた1日当たりの最大分水量で決められています。

そのため、ダム建設に要した経費の回収が終わるまでは、秦野市が県水の利用をやめたとしても支払いの義務は残ります。

神奈川県企業庁を通じ、神奈川県内広域水道企業団へより一層の企業努力を求め、県水の受水に係る費用の軽減に努めていきます。

また、人口減少などに伴う水需要の減少が見込まれる中で、地下水を主要水源として持続的に活用していくためには、水道施設の更新が必要になり、更新に伴う費用負担の増加が見込まれるため、水需要の見通しをよく検討し、今後の水運用を図っていきます。

これからも、水源を組み合わせる皆さんに安全・安心な水道水をお届けできるように努めてまいります。

